

Tip: 機能の選択を排他制御するカスタムダイアログの作成

この文書は Aceso Software の次の文書を元に記載しています。

<http://www.aceso.com/webdocuments/PDF/features.pdf>

Tip: Creating Custom Dialog Enabling Mutually Exclusive Features

検証したバージョン: InstallShield 2009 Premier Edition

要約

この記事では、SelectionTree コントロールに関する重要点および Windows 2000/XP 上のMSI のスコープの制限を紹介し、機能の選択を排他制御する方法について説明します。

背景

基本の MSI プロジェクトにおいて、SelectionTree コントロールはユーザーに Feature テーブルの機能の選択状態を変更できるようにします。このコントロールは、WC_TREEVIEW クラスで以下のスタイルで作成されます。

- WS_BORDER
- TVS_HASLINES
- TVS_HASBUTTONS
- TVS_LINESATROOT
- TVS_DISABLERAGDROP
- TVS_SHOWSELALWAYS
- WS_CHILD
- WS_TABSTOP
- WS_GROUP

SelectionTree コントロールは自動的に以下のコントロールイベントを発行します。

- SelectionAction
- SelectionBrowse
- SelectionDescription
- SelectionNoItems
- SelectionPath
- SelectionPathOn
- SelectionSize

このコントロールは、基本的に機能を排他的に選択することをサポートしていません。

機能の選択を排他的に制御できるようにする方法

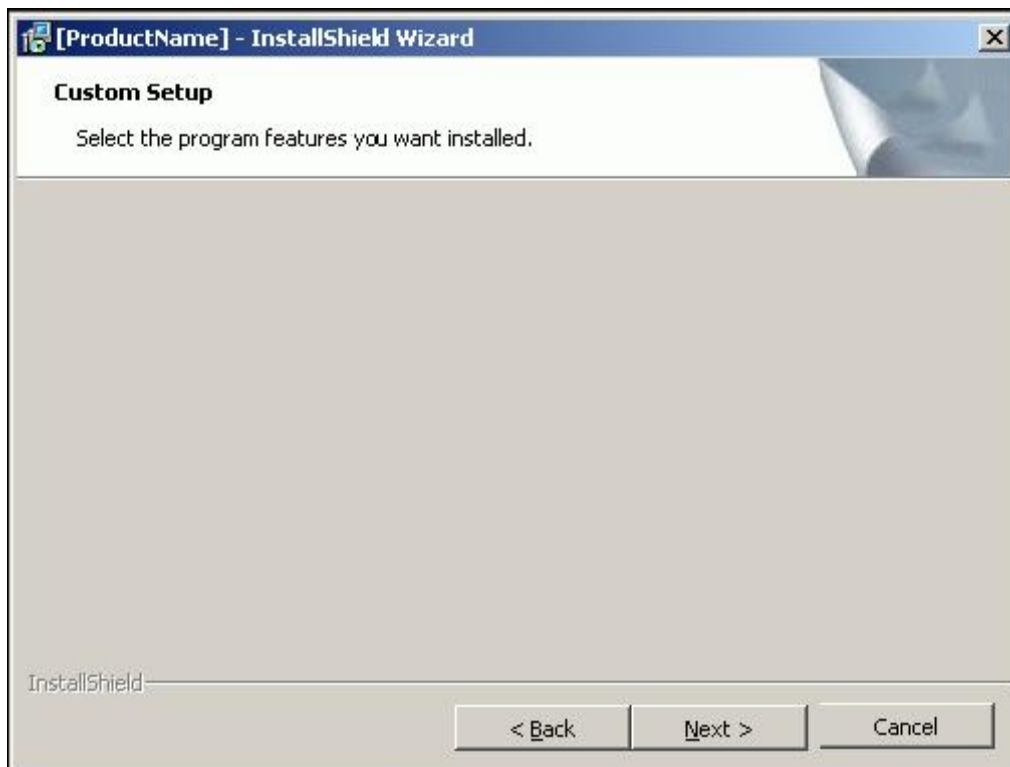
複数の機能の組み合わせの中から1つの機能だけを選択してインストールすべき状況では、技術的な制限により、標準ダイアログで使用されている SelectionTree コントロールでは対応ができません。代替になる方法としては、機能選択を操作するのに ListBox コントロールを使用する方法があります。

プロジェクトで、機能を実装する ListBox コントロールをもつカスタムダイアログをつくる手順は、以下のとおりです。

- 内部ダイアログの作成
- ダイアログへ ListBox コントロールを追加
- ListBox コントロールへの入力
- 機能選択の定義

手順 1: 以下に示すように内部ダイアログを作成します

図 1: ブランク内部ダイアログ

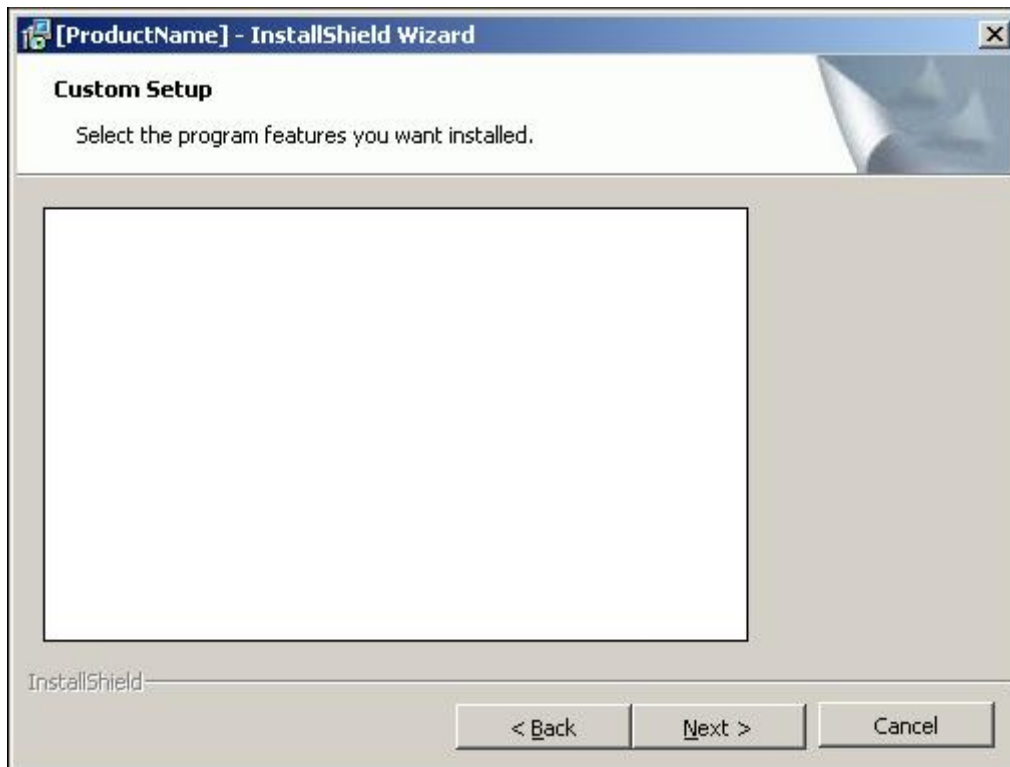


手順 2: ダイアログへ ListBox コントロールを追加します

図 2: ListBox コントロールボタン



図 3: カスタム機能選択ダイアログ



手順 3: ListBox コントロールへ入力します

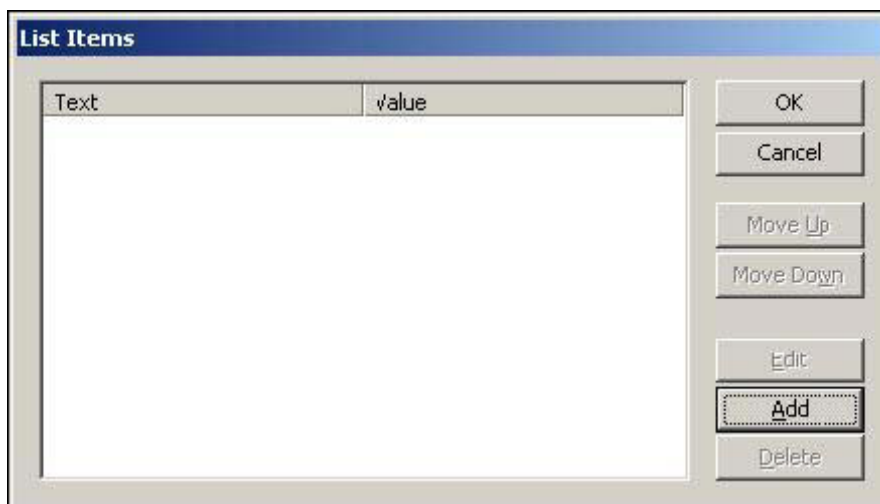
図 4は、ListBox コントロールで利用できる属性の完全なリストです。少なくとも以下のリストで Property と Items プロパティについてはよく把握しておく必要があります。

図 4: ListBox コントロール属性

Property	Value
(Name)	ListBox1
Base Text Style	
Cancel	False
Code Page	Database
Context Help	
Control Identifier	11
Default	False
Enabled	True
Height	163
Indirect Property	False
Items	
Left	10
Left Scrollbar	False
Other Windows Styles	0
Property	FEATURESLIST
Property Is Integer	False
Right-Aligned	False
Right-to-Left	False
Sorted	False
Sunken	False
Tab Index	3
Tab Stop	True
Text	
Text Style	
Tooltip	
Top	57
Visible	True
Width	265

ダイアログ(図 5)を表示するために、図 4 の プロパティ名 Item を選択してクリックします。

図 5: リストアイテム(ListBox Item) ダイアログの追加



ListBox コントロール内に個別の機能を追加するため、[追加]ボタンをクリックしてダイアログ(図 6)を表示します。「値」に入力された文字は、内部的に MSI によって使われ、実行時にユーザーの目に見えません。「テキスト」に入力された文字は、ユーザーに表示されます。「値」と「テキスト」は、同じ文字

列である必要はありません。「テキスト」が空白のままだった場合、「値」に入力された文字列が同様に「テキスト」に使用されます。

図 6: アイテムを追加



手順 4: 機能選択を定義する

図7で示すような既存の機能がある場合、すべての機能の [インストールレベル] を INSTALLLEVEL プロパティ値より高い値へ設定します。デフォルトの INSTALLLEVEL は、100です。このように設定することで、デフォルトで機能のインストールが選択されないようにすべての機能が初期化されます。

図 7: 既存の機能

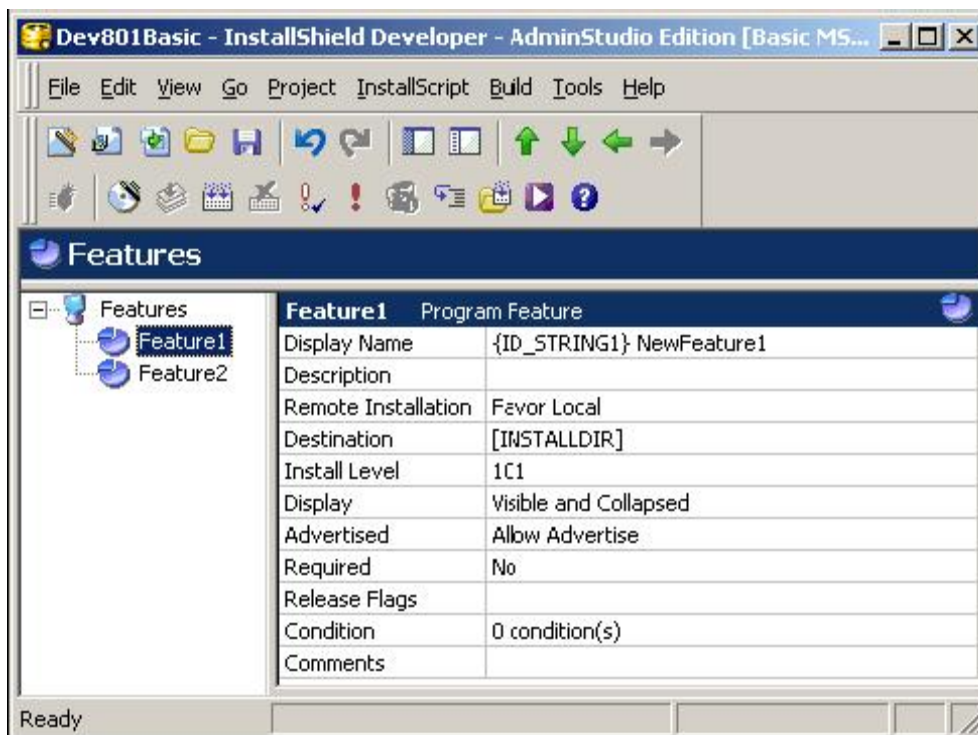


図8 のように[次へ]ボタンに AddLocal イベントを追加します。これで、ユーザーの選択に基づいてインストールする機能が選択されるようになります。インストール要件ごと他の必要なイベントを追加することができます。AddLocal イベントは文字列の引数をとりますが、指定できるのは機能の内部名または ALL のみです。リストアイテムが選択されると、ListBox コントロールのプロパティには 図5の「値」

コラムの文字列が入ります。

図8: [次へ]ボタンの AddLocal イベント

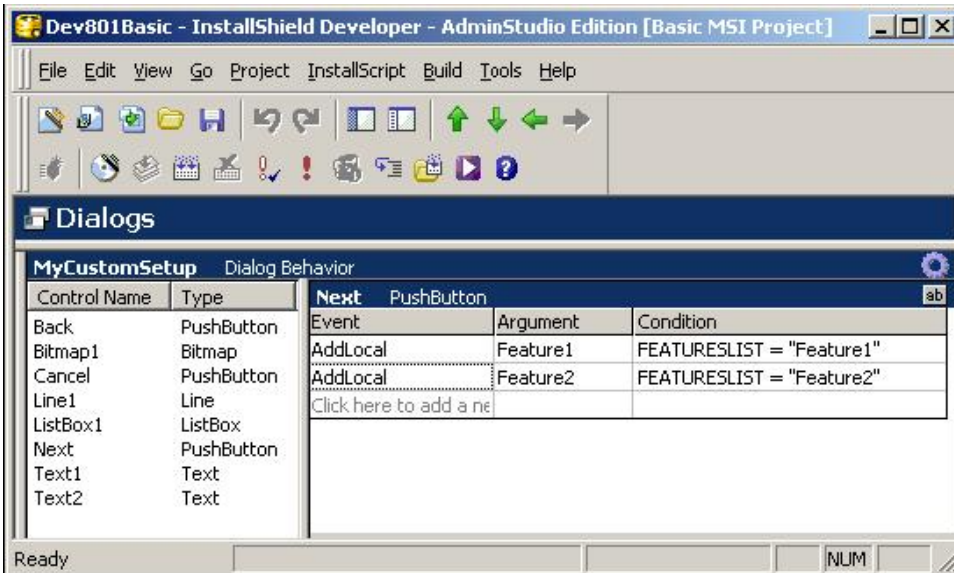


図 9 は、ダイアログが実行時にどのように表示されるかを示しています。IDE のプロパティマネージャで ListBox コントロールのプロパティに値を割り当てることで、デフォルトの選択状態を設定することができます。

図 9: 実行時の機能選択ダイアログ

